ミニ企画展

志郷武久展

緑蔭の自画像　昭和26年

ミモザのある静物　平成３年

～ごあいさつ～

私たちの郷土熊谷は、近代から現代にかけて多くの油彩画家を輩出しています。近代では、油彩画による日本の風景の表現を模索した森田恒友、油絵具で水や空気の透明感を表現した大久保喜一がその代表といえるでしょう。現代では、その独特の色彩感覚で油彩画のもつ表現力を追求した里見明正、そして里見の後に続き、都内や熊谷で数多くの個展を開き、今もなお活躍している画家に志郷武久氏がいます。

氏は昭和５年に熊谷で生まれ、県立熊谷高校を卒業後、東京藝術大学油画科に入学、安井曽太郎、梅原龍三郎、林武の三人に師事しました。昭和31年に東京藝術大学専攻科修了後すぐに同期生七人で「七象会」を結成して展覧会を開催、メンバーには小松崎邦雄らがいます。33年に行われた、二科会などを含む「五団体選抜新人展」では新人賞を受賞、若い時からその画才を発揮します。35年には、里見や松永敏太郎、熊谷出身の小島恭三らと「具象６人展」を結成、精力的に展覧会を開催するようになります。そして38年に渡仏し、ルーブル美術学校へ留学、約２年間のフランス留学では数々の展覧会に出品し、自身の画業を磨きました。

帰国後は、主に日本橋三越や銀座の画廊における、自身の所属会の展覧会に数々の作品を出品し、中央画壇での地位を確固たるものにしました。その後は都内から熊谷へ転居し、中央への作品出品を継続しながら、埼玉県美術展覧会では審査員を務め、埼玉県の代表作家として多くの作品を制作しています。

今回展は、当館で所蔵しております氏の作品の中から、代表的な作品を展観いたします。静物、人物、風景とそれぞれの対象へ真摯に向かい、磨き上げたデッサン力で捉えた対象を、氏の独自のタッチで表現したその作品は、青を基調とした色彩で静謐な雰囲気を醸し出し、氏の芸術性の高さを表しているといえるでしょう。

今回展を通して、郷土熊谷の輩出した素晴らしい画家の作品をご堪能いただければ幸いです。

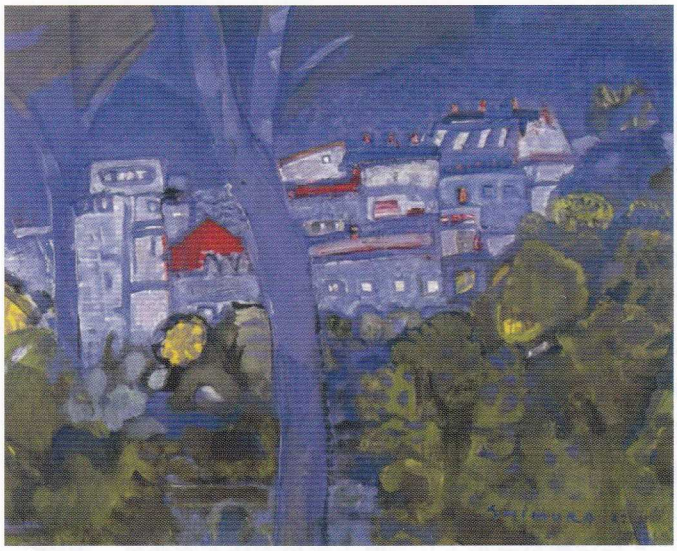
会期：平成26年３月４日（火）～６月１日（日）

［休館日：毎週月曜日（祝日は除く）、3/7、4/4、4/30、5/2, 5/7］

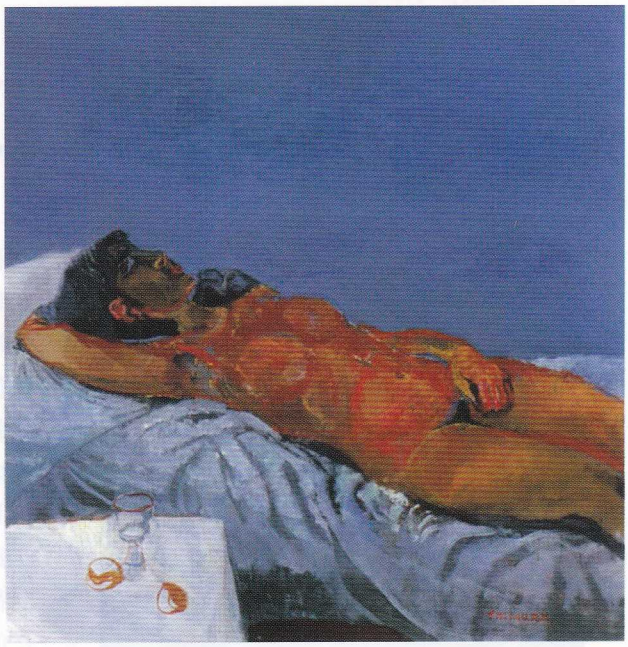
会場：熊谷市立熊谷図書館　３階 郷土資料展示室

時間：午前９時～午後５時

主催：熊谷市立熊谷図書館　　住所：熊谷市桜木町2-33-2　　電話：048-525-4551

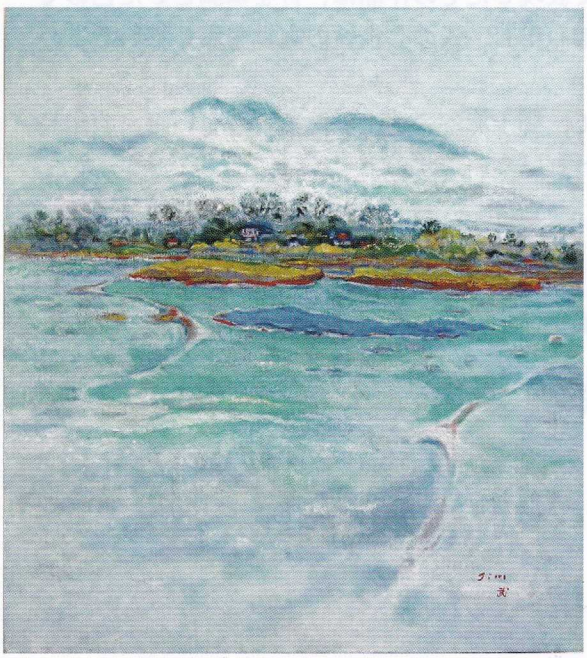


パリ風景　昭和39年



裸婦横臥　昭和58年　個展

バラのある静物　昭和45年



水田春彩（平塚新田）　平成12年

万平公園の桜　平成15年

※このチラシは2,000枚制作し、制作費用は1枚あたり12.5円です。